

3/5
吉旗



原発ゼロの未来へと「3・4全国集会」に福島県などから駆けつけ、参加した人たちは4日、東京都千代田区

原発ゼロ法の実現を

東京・全国集会に3000人

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故からまもなく7年となる4日、「原発をなくす全国連絡会」が「原発ゼロの未来へ 福島とともに」を東京・日比谷野外音楽堂で開催した。福島をはじめ各地から3000人（主催者発表）が参加。春の日差しの中、たたかいの力で原発ゼロ基本法を実現し、原発のない日本をつくらうとの発言が相次ぎました。

主催者を代表してあいさつした小田川義和さん（全労連議長）は、「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連）が公表した「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」について「全面的に賛成し、実現へ力を尽くす」と表明。「被災者救済でも、再稼働阻

めざして頑張る」と力を込めました。

首都圏反原発連合のミサオ・レッドウルフさんは「国会は与党が多数だが、基本法実現へ、私たちが声をあげることで後押ししよう」と語り、「さような原発1000万人アクション」の井上年弘さんは「私たちの運動で、今の状況を変えていこう」と強調しました。福島県からは、

自由党の山本太郎共同代表、新潟県の米山隆一知事、「原発をめぐり首長会議」の上原公平事務局長がメッセージを寄せました。日本共産党の笹井亮衆院議員、岩淵友、吉良よし子の両参院議員が紹介されました。集会後、参加者は銀座までパレードし

↓関連③④面

く勢力は「原発ゼロは非現実的」と攻撃しているが、非現実的なのはどちらかと問いかげ、①この世論調査を見ても再稼働反対は過半数②原発は究極の高コスト、世銀総裁も「原発の投資は行わない」と

表明③「核のゴミ」の問題は完全に行き詰まった」と指摘。ドイツの例を紹介して、「原発ゼロの決断をしてこそ、自然エネルギーの飛躍的普及が現実になる」と力を込めると、拍手と歓声が湧き起こりました。 ↓全文②面